

モーターヘッド

M
O
T
O
R
H
E
A
D

San-ei shobo

1050 JPY

WINTER 2015

14

Ken Block's

独占
取材



1965 MUSTANG
HOONICORN RTT



特集：箱根ゼンカイ。

plus

スマホ、iPadで見れるスペシャル動画付き。

Tokyo Underground

東京深夜の人間模様。

Euro Trends

最新ユーロメイク。

and so on...



デビュー間もない新型モデルに話題が集中しがちな昨今だが、ストリートで主役となるのは、やっぱり相応に時間が経ったモデルだと思う。カスタムのノウハウが確立されているからこそ、日常での扱いやすさを維持したまま、ともすれば最新モデル以上の存在感に仕立て上げるのだって、決して非現実的なことじゃない。

マイナーチェンジ前のカイエンSと、先代S63AMGを前にして、そんなことを考えていた。カイエンSはメーカー純正オプションたるスポーツデザインパッケージで純正っぽさを守りつつも、パワークラフトのハイブリッドエキゾーストシステムなどの飛び

道具も備える。一方、S63AMGはスポーツラインのセンターマフラーで図太い音色を手に入れつつ、エアサスコンピューターで車高をがっつり落としている。

両車とも、カスタムのキモとなるのは装着されるホイールだろう。国産鍛造ホイールの、もはや老舗に数えられるハイパーフォージドである。カイエンSにはボリューム感ある体躯に負けじと太い5本スポークを持つHF-C5.2が、C63AMGには力強さと繊細さが同居するHF-C10が装着されていた。日常ユースに支障をきたさない範囲で極限まで車高を落とし、フェンダーや路面とのクリアランスを確保するアプローチは、微細

なサイズオーダーを受け入れるハイパーフォージドならでは。この2台は、ともに22インチを装着していたが、ユーティリティとヴィジュアルを両立させる意味で絶好の落としどころなのだろう。

実際、気兼ねなく街中のどこへでも乗り付けることが可能で、写真のように多少の悪路へ踏み入れてもへっちゃら。たとえ泥で汚れたとしても、その使用感すらカッコイイと思えるし、強靱な表面処理はブラシでガシガシと洗える気軽さがある。デビューから時間の経ったモデルを自分色に染めつつ日常で使い倒したい人こそ、ハイパーフォージドはマストアイテムである。📷

カイエンに装着されるのはHF-C5.2。ディスクをブラッシュドアナダイズドブラック、リムをマットブラックとして、奥に潜む918スパイダー色のキャリパーとの調和を図った。タイヤサイズはフロント295/30、リヤ335/25。S63AMGにはHF-C10が、3Dブラッシュドセンターフィニッシュにハイポリッシュリムという組み合わせ。タイヤサイズはフロント255/30、リヤ295/25。2台とも22インチサイズで、これならば悪路もへっちゃらだ。

HYPER FORGED HF-C5.2

size : F22×10.0J / R22×11.5J price : ask



Part02
Street
Style

今どき 22インチ な気分。



EC.SPEC
S63AMG×CAYENNE

Text : 中三川大地 Daichi Nakamigawa Photo : 河野マルオ Maruo Kono

問い合わせ / HYPER FORGED

☎072-256-6664 www.hyperforgedwheels.com

取材協力 / EC.SPEC

☎092-406-1414



HYPER FORGED HF-C10

size : F22×9.5J / R22×11.0J price : ask